



はじめての能狂言

リングア・ギルドが主催するお話し会「リングア茶屋」が、
気分も新たに「新・リングア茶屋」として再スタートします。
「リングア茶屋」とは、言葉を大切にする翻訳通訳会社リングア・ギルドが
「コミュニケーション」にこだわって開催するトークイベントです。

今回のテーマは「能狂言」。
「狂言は笑えるけど、能は寝た。」
これは初めて能を観た方がよく言う感想です。
でもね、寝てもいいんです。
寝てしまってもその空間にいることが大切。
夢の向こう側に見える奥深い幽玄の世界をひもときます。
さて、あなたはどんな夢を見るのでしょうか。

●演目のいろは「至宝の芸を味わう」

2025年1月9日(木) 午後7時 (会場：サポコハウス + オンライン)
解説 木村仁恵 (能狂言字幕制作者)

●国立能楽堂にて観劇 (日本語・英語字幕付き)

2025年1月24日(金) @ 能楽堂 (午後5時半開演)

狂言 鏡男 (かがみおとこ) / 能 実盛 (さねもり)

- ▶ 参加は、解説と観劇のセットになります。参加申し込みをいただいた方には、「演目のいろは」終了後、期間限定でアーカイブ動画をご覧いただけます。
- ▶ 参加費用：
「演目のいろは」会場参加の方 500円 + 国立能楽堂公演日の観劇料金 5400円。
オンライン参加の方 1000円 + 5400円となります。
座席は脇正面席となります。

連絡先: lingua@linguaguild.com までメールか、03-5452-4450 へご予約をお願いします。

会場：サポコハウス 世田谷区太子堂 5-24-20-201
https://www.sapoko.org/sapoko_map_0310.pdf



国立能楽堂 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1
<https://www.ntj.jac.go.jp/nou/access/>

〈主催：株式会社リングア・ギルド〉
<https://linguaguild.com/>





「演目のいろは」

この講座は能を初めて見る方でも楽しく観劇できるように、能の基本知識や、今回見る演目の見どころ、演者に関してなどをもりだくさんにお話しします。

狂言「鏡男」のあらすじ

夫が愛する妻のために土産として持って帰って来たものは鏡でした。けれども妻は鏡と言うものを知らず、鏡に映った自分の顔を見て、夫が都から女を連れてきたものと思い込んでしまい一騒動が起こります。

初めて鏡で自分を見て揺れ動く人の気持ちや表情を面白おかしくかつ鋭く、大蔵流二世大蔵吉次郎が演じます。

能「実盛」について

斎藤実盛は、平安末期、源平合戦で木曾義仲と戦い壮絶な死を遂げた武将として知られています。室町時代に能を完成させたと言われている世阿弥が「平家物語」の実盛の話をもとに作った能です。

遊行上人が加賀国篠原で説法中、老翁が現れ合掌しますが、周囲には見えず不審がられます。上人が名前を尋ねると、老翁は平家方の武将・斎藤別当実盛の亡霊と明かし、姿を消します。上人が弔うため念仏を唱えると、実盛が老武者の姿で再登場し、最期の合戦について語り、弔いを懇願して消えていきました。

この演目は人物の語り分けが難しい曲として知られています。
その実盛を人間国宝、友枝昭世が勤めます。



木村仁恵（能狂言字幕制作者）

立教大学文学部日本文学科 修士課程修了後、歌舞伎・能狂言の映像・字幕作成の仕事に携わる。リングア・ギルドでは、謡曲の古文を現代文に訳す仕事を担当。歌舞伎、能狂言、文楽と幅広く伝統芸能に造詣が深い。